

令和5年度

施策評価表(令和4年度の実績評価)

記入年月日

令和 5 年 6 月 21 日

施策No.	政策名	生きがいを育む学びのまちづくり	主管課	文化財課	主管課長名	寺崎 大貴
2-5	施策名	文化財の保存活用	関係課	ヤマザクラ課、都市整備課		

1. 施策の目的と成果把握

施策の対象	対象指標名	単位	区分	4年度	5年度	6年度	7年度	8年度
・市民 ・桜川市内に存在する文化財	①桜川市人口	人	見込値	37,653	37,269	36,885	36,500	35,897
			実績値	37,653				
	②指定文化財数	件	見込値	129	129	130	130	131
			実績値	129				
	③登録文化財数	件	見込値	102	102	102	102	102
			実績値	102				
施策の意図	成果指標名	単位	区分	4年度	5年度	6年度	7年度	8年度
文化財を保存・活用して継承し、地域に愛着や誇りを持っている。	①文化財などを大切にし、後世に伝承していくべきと思う市民の割合	%	目標値	80.0	80.0	80.0	80.0	80.0
			実績値	79.8				
	②郷土の伝統行事や文化財に愛着心や誇りを感じている市民の割合	%	目標値	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0
			実績値	50.6				
	③歴史講座等に参加した人数(R4から新規)	人	目標値	120.0	140.0	160.0	180.0	200.0
			実績値	119.0				
				目標値				
				実績値				
			目標値					
			実績値					
成果指標設定の考え方	「文化財を保存・活用して継承し、地域に愛着や誇りを持っている」は、①文化財などを大切にし、後世に伝承していくべきと思う市民の割合を、実測値を80%に維持することにより継承出来ると判断した。②郷土の伝統行事や文化財に愛着心や誇りを感じている市民の割合を実測値50%に維持することにより維持出来ると判断した。③歴史講座等に参加した人数を増加させることにより、施策の意図が醸成されると判断した。							
成果指標の把握方法と算定式等	○対象の人口は、毎年10月1日の常住人口。 ○①文化財などを大切にし、後世に伝承していくべきと思う市民の割合、②郷土の伝統行事や文化財に愛着心や誇りを感じている市民の割合は、市民アンケートより求める。③歴史講座等に参加した人数は、現地説明会や各種講座等の受付簿より求める。							

2. 施策の成果水準とその背景・要因

1) 現状の成果水準と時系列比較(現状の水準は以前からみて成果は向上したのか、低下したのか、その要因は?)

実績比較	<input type="checkbox"/> 成果がかなり向上した	<input type="checkbox"/> 成果がどちらかといえば向上した	<input checked="" type="checkbox"/> 成果がほとんど変わらない(横ばい状態)
	<input type="checkbox"/> 成果がどちらかといえば低下した	<input type="checkbox"/> 成果がかなり低下した	
背景・要因	令和3年度と比較すると、アンケート結果はほぼ横ばいであった。新型コロナウイルスの落ち着いていた時期には真壁城跡の現地説明会や歴史講座などを開催することが出来たが、拡大した時期には伝統民俗芸能のつどいが中止になるなど、不安定な状況であった。		

2) 成果目標の達成状況

実績比較	<input type="checkbox"/> 目標値の全てを上回った	<input checked="" type="checkbox"/> 一部の成果指標で目標値を上回った	<input type="checkbox"/> 目標値どおりの成果であった
	<input type="checkbox"/> 一部の成果指標で目標値を下回った	<input type="checkbox"/> 目標値の全てを下回った	
背景・要因	①文化財などを大切にし、後世に継承していくべきと思う市民の割合は、令和4年度目標値80.0%に対し、79.8%と0.2ポイント下回った。 ②郷土の伝統行事や文化財に愛着心や誇りを感じている市民の割合は令和4年度目標値50.0%に対し、50.6%と0.6ポイント上回った。 目標値を現状から設定しているため、現時点はほぼ設定通りである。 ③の歴史講座等に参加した人数は、歴史講座の開催回数が少なかったため、目標値を下回った。 アンケート結果を地区別に見ると、指標①では岩瀬地区75.5%、真壁地区84.9%、大和地区84.3%と高い水準にあるが、岩瀬地区は他に比べて9ポイント近く低い。指標②では、岩瀬地区44.3%、真壁地区59.5%、大和地区52.7%となっており、岩瀬地区と真壁地区とでは約15ポイントの開きがある。		

3. 施策の成果実績に対するの総括と今後の課題・方針

施策の成果実績に対するの総括	今後の課題・方針
令和4年度に貢献度が高かった事業は、国指定史跡真壁城跡保存整備事業(発掘調査・発掘説明会)、指定文化財等維持管理・調査事業、出土遺物保存処理委託事業であった。 案法寺の木造金剛力士立像が県指定文化財となり、国県指定文化財の数が県内2位となった。	史跡真壁城跡の発掘調査に注力しているため、史料調査や企画展示に重点を置くことが難しくなっている。体制の整備や資料保存活用の優先順位に関する総合的な情報整理などを行い、活用しやすい収蔵施設の安定的な確保を行う必要がある。 コロナ禍の影響で民俗芸能や祭礼行事、講中など多くの地域行事が縮小、休止され、そのまま再開できずに廃止、解散される事例が増えている。住民の年代構成によるものと考えられるが、岩瀬地区での文化財への評価が低い状況にあり、特に重点を置いて情報発信や教育普及事業を実施する必要がある。